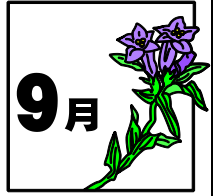


鹿児島市立和田小学校 学校だより

9月号 七ツ島



令和5年9月29日発行



学力向上は、子供たちの夢の実現のため

校長 池田 浩

算数の長さ比べ

スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、そして学習の秋です。

さて、今年4月に6年生を対象として文部科学省が行った「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果分析がまとまりましたので、概要をお知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、御家庭での取組の参考にしてください。

さて、本校の結果は、下表のとおりです。

	平均正答率		平均正答数			無回答率		
	本校	全国	本校	全国	県	本校	全国	県
国語	92.3	100	8.7	9.4	9.4	8.2	4.8	3.0
算数	84.8	100	8.6	10.0	9.8	5.5	3.4	2.4

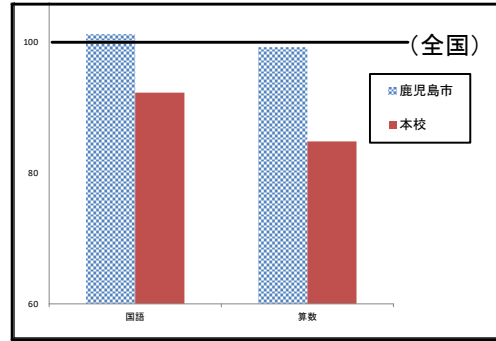
※ 平均正答率は、全国を100としたときの数値です。

残念ながら、平均正答率は、国語・算数共に全国・市を下回っています。

全国に比べかなり低いように感じてしまいますが、平均正答数で見ると、国語が0.7問、算数が1.4問の差です。つまり、国語であれば、全員があと0.7問正解すれば、全国平均に届くのです。しかし、これが簡単そうで、なかなか難しいので、よく「1問の壁」と言ったりしますが、頑張り次第で達成可能な数値です。

もう一つの課題は、無回答率の高さです。全国・県に比べかなり高い状況です。中には、問題も読まずにあきらめて空欄にしてしまう子もいます。困難な問題

にも失敗を恐れずに果敢にチャレンジする態度、あきらめずに最後まで粘り強く取り組もうとする心構えは、これからの子供たちの人生にとっても大事な姿勢です。



なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部だけであり、子供たちのもっている学力の一側面に過ぎません。ですから、これだけをもって子供たちの学力を判断するということがないように、私たち職員も留意しています。ただ、この結果は、本校職員も謙虚に受け止めています。学校では、今回得られた課題を解決するための改善策をまとめ、全職員で研修を行いました。今後も、子供たちに「確かな学力」を付けるために取り組んでまいりますので、御家庭でも、家庭学習の習慣化への御指導をお願いいたします。

また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査もありました。

全国・県より高い結果が出たのは、「将来の夢や目標をもっている」「読書が好きである」「学校の授業時間以外の読書時間」などです。

反対に低い項目は、「自分にはよいところがあると思う」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」などです。

今後も、本校の強みは生かすとともに、自己肯定感を高める言葉かけや自ら学びに向かう力を培うための授業中の教師の働きかけなどを重点項目に位置付け実践していきます。

学力は、一朝一夕に伸びるものではありませんので、この結果を基に、6年生だけではなく、1～5年生のそれぞれの学年で身に付けるべき学力を、当該学年の中で付けていかなければなりません。

また、家庭学習も必要になってきます。ある調査によると、「保護者が温かい働きかけ・言葉かけをしている子供は、学力が高い」という傾向があるそうですので、今後とも御協力をよろしく願います。

私は、「学力向上は、子供たちの夢の実現のため」だと考えています。これからも、課題を共有しながら、職員一丸となって、子供たちの学力向上に取り組んでいきます。

